

平成30年度 村政懇談会 後編

7月3日から9月1日にかけて、地区自治会と村の共催による村政懇談会を開催しました。今年度は、各地区自治会で開催方法を決定し、村執行部からの事業紹介や村長との懇談会、ワークショップなどを取り入れた地区もあり、有意義な村政懇談会となりました。今回は各地区で行われた懇談の内容(一部抜粋)の後編をご紹介します。詳細は、今後村公式ホームページに掲載する議事録をご覧ください。

■問い合わせ 地域づくり推進課地域づくり推進担当(☎282-1711 内線1461)

白方地区

【期日】8月4日 【場所】白方コミュニティセンター

【参加者】Ⅰ部…まちづくりを考える会(ワークショップ)：103人 Ⅱ部…自由意見交換会：120人

2つのテーマ(元気な高齢化社会の実現、地域活動協力者の仲間づくり)に分かれてワークショップを実施し、最後に代表者から意見発表がありました。

元気な高齢化社会の実現

元気な高齢化社会の実現をテーマに議論した結果、以下のような意見が出た。

▽元気な高齢化社会の実現のためには地域の活性化が大事。地域での取り組みが重要で、例えば皆で集まって核になる行事があると良い。

▽自ら壁を作ってしまう、活動に出てこない人に対しては、ソフトに誘い掛けるのではなく、誰がやるかは別として、リーダー的存在の方が強く声掛けをすることも必要だ。

▽今は役員を順番にやっているが、高齢であるために体力的にできない方もいる。また、パソコンが使えないので役員を辞退せざるを得ない方もいる。そういった方をどうするかも考える必要がある。

▽女性の高齢者はいろいろな活動に積極的に参加して非常に元気だが、男性は消極的だと感じている。

▽地域の核となる行事と関連するが、どこの地域にも高齢者クラブや防犯パトロール等があるので、そういったことも一緒にやってもらえるように引っ張り込むことが大切だ。そこで顔なじみになることで、他の活動にも出てくるようになるのではないかな。

▽最近70歳くらいでも働いている方が多い。働きながら地域の活動をするとなかなか難しいが、できる範囲でやってもらえるような方策があると良い。



地域活動協力者の仲間づくり

地域活動協力者を“自治会活動の協力者”と捉え、どうすれば自治会活動に協力してもらえるのか議論した。主な意見は以下のとおりである。

▽自治会活動に参加する、あるいは自治会役員になる方の状況について話し合ったところ、どこの常会でも、最初に出るのは「大変だ」という意見だ。裏を返せば行事が多いのだろう。

▽自治会活動は完璧を求められる。新しくやる方も完璧を求められ、目に見えないプレッシャーを感じてやりづらくなってしまふ。

▽現実的な問題としては、自治会活動にはパソコンが必須となってきており、先輩の方でパソコンが使えない方がいると、お願いされることもある。そういったことも「大変さ」に入るのだろう。

▽自治会で行うイベントについては、景品等の魅力を見せて若い人たちの参加率を上げ、そこから地域の輪を広げることも手段の1つだと思う。

▽班長経験者で自治会への関与に興味がある方をピックアップし、その方をアドバイザーのような立場として迎え、次の自治会活動において中心的な役割を担ってもらえるようにすれば、最終的には自治会の存続および若返りを含めた活性化ができるのではないかな。



真崎地区

【期日】9月1日 【場所】真崎コミュニティセンター

【参加者】全体会：93人 第1分科会：21人 第2分科会：27人 第3分科会：26人

3つのテーマ(子育て・教育、生活環境、高齢者福祉)に分かれて分科会を実施し、最後に代表者から意見発表がありました。

子育て・教育について

子育てや教育をテーマに議論した。主な内容は以下のとおりである。

▽子どもと先生の時間の確保のため、10月から部活動を縮小するという点について、骨抜きになることなく、統一的に行えるようにしてほしい。

▽部活動については生徒たちが自分で考えるようにという趣旨で、いろいろな考えを持ってやるのが大切だろう。

▽「コミュニティスクールを通して学校と地域がうまく関わっているが、将来的な展望はあるか。」との質問に、村からは、「学校運営協議会以外の方をどう取り込んでいくかという点で課題がある。」という回答があった。

▽子ども会がなくなってきていることについて、村から、「地域が基本となって担っていき、親が中心になってやっていくということが原則で、村はサポートをしていく。」との話があった。



生活環境について

主な意見は以下のとおりである。9月1日が「防災の日」ということもあり、防災に関する話も出た。

▽災害時協力井戸である旨を記載したステッカーを真崎区で配付した。このステッカーに“災害時の飲料水には使えない”という表示をしてほしい。

▽災害時にはどうやって井戸の水をくみ上げるのか、あるいは村の方で5年に1回程度、井戸が使えるかどうか定期的に実態を調査した方が良い。

▽阿漕ヶ浦公園の整備が進んできて、風景が良くなってきた。阿漕ヶ浦公園と真崎古墳群の整備など、エリア構想がたくさんある。真崎地区は阿漕ヶ浦、真崎古墳群、細浦の眺望等、非常に自然に恵まれたロケーションなので、構想だけでなく、ぜひ実現させてほしい。



高齢者福祉について

議論の結果、以下のような意見が出た。

▽高齢者のおむつの給付について、手法が変更されたが、これまで非常に良かったのになぜ変わってしまったのか。手法を変えるときには広く意見を聞いてほしい。

▽高齢になると免許証を返納するよう言われるが、返したくても実際には交通手段がなくて困る。村ではバスやデマンドタクシーがあるが、デマンドタクシーを使った方から、病院に行くときは誘い合わせで使っても、帰りはみんなばらばらになるので利用できないと聞いた。福祉タクシーとか、もう少し考えてもらえないか。

▽はがきでの架空請求については、高齢者にチラシ等の案内を配るのは良いことだが、それでは捨てられてしまうので、大事な電話番号はシールで貼れるような配慮をしてほしい。

